

日本放射線腫瘍学会 第 29 回学術集会

キュリー夫人誕生 150 周年記念シンポジウムの報告

北里大学放射線治療科 小森承子

JASTRO 学術集会の 3 日目、11 月 27 日に日本医師会と日本放射線腫瘍学会、日本女性放射線腫瘍医の会 (JAWRO) の共催でキュリー夫人 (マリー・キュリー) の生誕 150 年を記念したシンポジウムが行われました。座長は鳥取大学の内田伸恵先生、山口大学の澁谷恵子先生にお務め頂きました。広い会場でしたが、男性も含め大勢の方が参加して下さり、テーマに対する関心の高さが伺えました。

基調講演は名古屋工業大学の川島慶子先生から“マリー・キュリー：放射線医療のパイオニア”と題してお話を頂く予定でしたが、残念ながらご体調不良にて川島先生の来場は叶わず、先生のメッセージが読み上げられ、先生のスライドを用いて内田先生が代わりに講演を行われました。誰もが知っている放射線医療・女性科学者のパイオニアですが、その当時の社会の放射能に対する認識や、キュリー夫人の人間的な部分など初めて知ったエピソードもあり、非常に興味深く拝聴しました。

続いて東京大学の細谷紀子先生から“放射線研究から医学へのパラダイムシフトへ”と題して基礎的な放射線研究のお話があり、普段我々が行っている診療のバックグラウンドとなる部分をわかりやすく解説して頂きました。

引き続き順天堂大学の齊藤アンネ優子先生から“指導的立場にいる女性放射線治療医：日米比較”との題でご講演を頂きました。海外留学のご経験を生かしたグローバルな研究の結果をご発表頂き、女性が職場で直面する問題を斬新な手法で取り上げていらっしゃいました。

最後の講演は JAWRO の顧問で初代会長でもある関西医科大学の播磨洋子先生から、“「日本女性放射線腫瘍の会 (JAWRO)」の紹介”と題し JAWRO の歴史と現状についてのお話がありました。JAWRO の会員でない方にも JAWRO に興味を持ってもらえるきっかけになったと思います。

最後に、インドネシア放射線腫瘍学会の会長で、次期 FARO 会長でもある Cipto Mangunkusumo General Hospital の Soehartati Gondhowiardjo 先生からお言葉を頂きました。同じアジアの中で女性放射線腫瘍医として活躍されている先生のお言葉はとても心強く感じました。

非常に多彩なプログラムで、女性と放射線科学・医療との関わりについて再認識することができた有意義な時間でした。